あなたの職場はまちに開かれていますか?
～大阪府茨木市　オープンカンパニー事業～

地域交流

茨木市長　福　岡　洋　一　*

Is your company open to the community?

～the OPEN COMPANY PROJECT in Ibaraki city～

Key Words：factory tour, industrial tourism, regional community

1．オープンファクトリーを知っていますか？

(1) オープンファクトリーの定義

オープンファクトリーとは、見学者を受け入れる側である事業者が主体となり、従業員の意識改革や社内イノベーションの創出を見据えて事業場の公開を行う取り組みを指す。

企業単体で取り組むオープンファクトリーの事例も多いが、茨木市では「地域一体型オープンファクトリー」の持つ可能性に注目している。これは、地域内の企業等が面的に集まり、生産現場を外部に公開したり、来場者にものづくりを体験してもらう取り組みのことで、企業や地域に様々な効果をもたらす。

「地域一体型オープンファクトリー」の取り組みは、近年、関西地域を中心に全国で広がりを見せている。近畿経済産業局によれば、2024年度には全国で60事例にのぼっており、北摂においては、豊中市、摂津市においても実施されている。[1)]

(2)「地域一体型オープンファクトリー」がもたらす効果

○地域との関係性の構築

工場と聞くと、特に中小企業ではやや閉鎖的なイメージが先行するが、これは、何が作られているのか、どんな人が働いているのか、工場内部の様子があまり知られていないことも一因と推察する。かつての工場はオープンであり、ものづくりの音が聞こえ、作業する姿が見られるなど、まちの風景となっていた。環境や安全への配慮もあり、今ではものづくりの現場を目にする機会は少なくなっている。そのような状況の中、工場を開き、生産現場を公開することは、まちの人々に企業に対する理解を深めてもらえる有意義な機会となる。実際に、毎年近隣住民を対象に工場見学を実施している企業では、生産現場の見学とともに騒音対策に注力している姿も見てもらうことで、地域に配慮する姿勢が評価され、より関係性が深まったと聞く。

○従業員の確保

求職中の方が実際の職場を見学し、そこで働く方々と交流する中で当該企業に魅力を感じた結果、就職につながることもある。オープンファクトリーを通じて伝統的なものづくりの技術を見せることで、自社製品のブランド力が浸透し、職人希望の若者の入社が増えるといった成果につながった例もある。

このように、オープンファクトリーの効果は、外部への働きかけ効果、いわゆるアウターブランディングへの期待が取り組み動機の柱となっている例が多い。

○従業員のモチベーションの向上

製品や商品を企業相手に販売・納入している、いわゆるBtoB企業で働く方にとって、自分たちが造った製品が活躍しているところを目にする機会は少なく、「縁の下の力持ち」を地で行く企業も多い。オープンファクトリーはそういった企業で頑張る人たちが主役となる場でもある。高度な加工技術や仕事に懸ける想いに触れた参加者からの「すごいですね！」の声は、働く人たちの大きなモチベーションとなる。

* Yoichi FUKUOKA
1975年10月生まれ
大阪大学法学部（国際政治コース）（2002年）
甲南大学法科大学院（2008年）
現在、茨木市長（2016年4月～）

○人材育成効果

参加企業の中には、自社の技術を説明するためにワークショップをはじめ、種々の取り組みを展開されるが、その企画を進める中で、従業員の自主性や積極性が発揮されるとの話や、普段の業務とは違った一面を見ることができるとの体験談も多い。また、参加者に対して工程の説明をする際には、専門用語を使うことができないため、自ずと一般的な用語に置き換えて説明することになる。「どんな言葉で説明すれば参加者に納得してもらえるか」を考えることは、従業員の研修としても有意義だという。加えて、見学者を受け入れることは、従業員による自発的な整理・整頓・清掃といった社内営繕活動にもつながる。

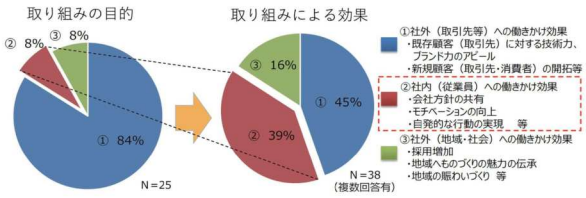
○社内越境と「共創」プロセス

オープンファクトリーに会社全体で取り組むことは、社内の組織間の壁を超えることにつながる。京都橘大学の丸山准教授は、これを「越境」という言葉で説明している。[2]「オープンファクトリーは、普段の顧客とは異なる不特定多数の外来者向けのイベントであり、中小企業では組織の垣根を越えて対応せざるを得ない。そのため、職能横断の対応チームにより企画が推進され、従業員一丸となって『見せる』ことに取り組むために、社内人材同士での『越境』が生まれる効果がある」という。共通のプロセスを経験することで共有と共感を得られる点では、後に言及する茨木市が推進する「共創」を疑似体験することにもつながっている。

このように、オープンファクトリーは、企業のインナーブランディング、つまり社内への働きかけにおける効果も非常に大きい。近畿経済産業局が実施したヒアリング調査によれば、オープンファクトリーに取り組む動機として、企業のPR等アウターブランディングを期待する回答が多かったものの、実施後の感想では、インナーブランディングにおける効果が得られた、との回答が4割近くを占める結果が出ており、オープンファクトリーが人材育成に想定以上に効果がある、との見解を示している。（図1参照）[3]

○企業間の「共創」促進

さらに、企業間のゆるやかな結び付きを特徴としたコミュニティ形成に至る例も多い。これまで関わりのなかった企業同士が知り合うきっかけとなり、企業間の交流が促進されることで、コラボレーションによる新商品開発にもつながる例がある。中小企業単体では成しえないビッグプロジェクトや、解決の難しい問題にも、それぞれの得意分野を活かして取り組むことが可能で、大阪・関西万博においても、「地域一体型オープンファクトリー」を核に集まった企業が様々なイベントを盛り上げていた。



出典：近畿経済産業局「関西企業フロントラインNEXT Vol.14」より抜粋

（図1）オープンファクトリーに取り組む目的と効果

事業所内を公開して参加者に楽しんでもらい、自社を知ってもらうことも重要だが、企業が集まって交流する中で生まれる掛け合わせこそが、「地域一体型オープンファクトリー」の神髄ではないかと考えており、これは茨木市が推進する「共創」の取り組みと軌を一にするものである。

2．茨木市版オープンカンパニー

○オープンファクトリーの試行

茨木市では、令和5年度から「地域一体型オープンファクトリー」の取り組みを開始した。初年度は市内の4事業者に参加いただき、小学生を対象とした親子バスツアーを実施したところ、24人の定員に対して100人以上の申し込みがあった。参加者からは、「普段見ることができない工場の様子をみることができて良かった」「来年も是非開催してほしい」といった声が寄せられている。また、受け入れ企業からも、「普段接点がない地域の人や子どもたちとの触れ合いは従業員にとってよい励みとなった」と、参加者も受け入れ企業も取り組みを肯定的に捉えていたこともあり、令和6年度から規模を拡大しての本格実施となった。

○「いばらきオープンカンパニー」スタート[4]

本格実施にあたってコンセプトを明確化している。まず、サービス業をはじめ製造業以外の事業者も多く所在している茨木市の産業構造を踏まえ、工場だ

けでなく幅広い業種の事業所の参加を可能とする「いばらきオープンカンパニー」として実施することとした。このように、様々な業種の事業者の参入を目指している点が、茨木市の取り組みの大きな特徴である。また、参加者が自身で各事業所を巡ってもらう形式に変更し、対象も限定せず、より多くの参加者を受け入れることができるようにした。

さらに、茨木市にあるまだまだ知られていない会社をクルクルとめぐってもらい、新しい発見と刺激を受けてもらいたいとの思いを「いばらき、クルクル。」のキャッチコピーに込めて、いよいよ本格始動した。これらの見直しの結果、令和6年度は7事業者が参加し、195人の方々に参加いただいた。中には受付開始後すぐに多数の予約が入り、急遽受入枠を拡大する事業者も出てくる等、市民の皆さまの関心の

（写真1）オープンカンパニー当日の様子

高さが伝わってくるイベントとなった。

また、参加事業者間のネットワークづくりにも力を入れている。他社の事例見学も含め、3回の勉強会を開催する中で、参加企業同士のコミュニケーションを深めている。当初はどの企業も社長中心の参加であったが、回を数えるごとに従業員の方々が積極的に参加され、主体性を発揮するようになり、社長同士のコミュニケーションにとどまらず、従業員同士がつながりを持つ新たな関係性の構築につながっている。取り組みを通じて、参加者間で場とプロセスを共有し、共感・共鳴するステップが働いているものと推察する。実際に、事業者間での交流はオープンカンパニーのイベント後も続いている。例えば、参加企業で鋳物製品の製造を行う企業が試作用の3Dプリンタを使って作成したパズルを、同じく参加企業である市内の老人ホームに提供し、入居されている方々の指先や認知機能のトレーニングに活

（写真2）パズルを使ったトレーニングの様子

用するコラボ事例が報告されている。

さらに、勉強会とは別に相互に工場見学や意見交換を自発的に実施する例も出てきており、従業員同士の交流がさらに拡大する取り組みも見られる。このように、オープンカンパニーは市内事業者が出会い、交流を深める場としての機能も果たしつつある。

企業単体での取り組みにより企業内の職能部門の壁を「越境」する効果が見られるのと同じく、地域一体でオープンファクトリーに取り組むことで、地域内の企業間の壁を「越境」する効果が発揮され、企業間ネットワークの構築に良い効果をもたらすことが報告されている。「地域一体型オープンファクトリー」が、企業、そして地域としてのイノベーションを創発する手法として注目されている。

○さらなる深化に向けて

「いばらきオープンカンパニー」の取り組みは、令和7年度もさらに深化・拡充させていく予定である。まず、令和6年度までは1日開催であったものを、令和7年度は平日を含む2日間開催とする計画であり、オープンカンパニーに加え、出張型のワークショップについても検討しており、参加企業も倍増を見込んでいる。本稿作成時点（令和7年7月）で事業説明会を2回開催したところ、延べ50名以上の参加があり、企業だけでなく、大学や金融機関、商工会議所等の支援機関にも関心を寄せていただいており、本事業に対する手ごたえを大いに感じている。

茨木市の特色の一つに学生が多いことが挙げられる。市内には5つの大学が存在し、24,000人近くの学生が在籍している。茨木市では学生との「共創」

にも積極的に取り組んでおり、令和7年度も企業の魅力発掘と発信を大学とのコラボで実施する予定である。オープンカンパニーの取り組みにおいても、大学や学生と連携した情報発信等、茨木市の特色を生かした挑戦の余地、伸びしろがまだまだある。

3．茨木市がめざすゴール

茨木市は、大阪府の北部、大阪と京都の間に位置し、交通環境の利便性や豊かな自然環境等、恵まれた多くの魅力を生かし、選ばれるまちとして人口増加が続いてきた。そして、誰もが豊かさ、幸せを実感できる「次なる茨木」へさらなる歩みを進めている。豊かさ、幸せとは何か。マズローが掲げる人間の5大欲求の最終は「自己実現」である。茨木市は、市民の皆さまはもちろん、各種団体や企業、それを支える皆さまには、「自己実現」、すなわち、このまちで自らの可能性や価値を試し、ありたい自分へ成長、到達してほしいと願っている。先に述べたオープンカンパニーの効果は、まさに企業の、そして従業員の「自己実現」に他ならない。

茨木市では、まちの大きな方向性として「共創」[5]を掲げている。「自己実現」のためには「共創」が必要だと考えているからである。一人ではできないことがみんなで協力すればできるのはもちろん、いろいろな掛け合わせが新たな価値や見たことのない景色を生み出していく。

そして、茨木市での「共創」のまちづくりは、取り組みに関わっていただく皆さまの共有・共感・共鳴をプロセスに据える。オープンカンパニー事業は、これらの要素が含まれており、事業に込めた想いを参加企業の皆さまと共有することで魅力的なイベントになり、参加された方も各企業に共感・共鳴するというポジティブな循環を生み出しつつある。

「共創」するには多様な主体の参画が必要であり、企業やそこで働く従業員の方々にもプレイヤーとしてまちづくりの一翼を今まで以上に担っていただくことが、さらなるイノベーションの創出のためにも必要であろう。

企業が「ひらく」ことが、まちを「ひらく」ことにもつながる。企業自身に開いていただくことを期待して、「いばらきオープンカンパニー～いばらき、クルクル。」に取り組んでいく。企業とまちの橋渡しを担う事業として、さらに魅力的なコンテンツにすべく取り組むとともに、この流れを一過性のイベントにするのではなく、参加企業がフラットにコミュニケーションを取れるコミュニティを構築し、まちでのイノベーション創出の苗床にしていくことを目標に取り組んでいく。

いばらきオープンカンパニーのロゴ

1: 近畿経済産業局 (2024),「OPEN FACTORY REPORT 2.0」, 近畿経済産業局 (https://www.kansai.meti.go.jp/1-9chushoresearch/openfactory/webOPENFACTORYREPORT2.pdf)
近畿経済産業局 (2025),「OPEN FACTORY REPORT 2.1(追加更新分)」, 近畿経済産業局 (https://www.kansai.meti.go.jp/1-9chushoresearch/openfactory/webOPENFACTORYREPORT2_1.pdf)
2: 京都橘大学丸山一芳 (2022),「オープンファクトリーによる産地革新の越境と知識移転」, 関西オープンファクトリーフォーラム Vol.9 基調講演資料
3: 近畿経済産業局 (2019),『関西企業フロントライン NEXT Vol.14「人材」が育つ関西のオープンファクトリー～取り組みから生まれる「共通言語」～』近畿経済産業局 ,p13 (https://www.kansai.meti.go.jp/1-9chushoresearch/frontline/frontline_no14.pdf)
4: 令和6年度いばらきオープンカンパニー「いばらき、クルクル。」開催概要 (https://www.city.ibaraki.osaka.jp/kikou/sangyo/shoukou/menu/kigyou-miryokuhakken/open-company/65961.html)
5: 茨木市 (2024),「第6次茨木市総合計画基本構想」, 茨木市 ,pp.24-25 (https://www.city.ibaraki.osaka.jp/material/files/group/13/6jisoukei_kihonkousou.pdf)